

図3 ササの群落高の推移

3.3 ニセアカシアの処理方法試験

3.3.1 調査概要

ニセアカシアの萌芽再生を抑えるため、適切な薬剤処理方法について調査を実施した。

薬剤は、トリクロピル剤（ザイトロンアミン液剤）およびグリホサート剤（ラウンドアップ）の2種類を使用した。薬剤処理の工法は、「伐採＋薬剤塗布」、「伐採＋薬剤注入」、「巻き枯らし＋薬剤塗布」、「薬剤注入」の計4タイプで実施した。

3.3.2 調査結果

ニセアカシアの薬剤による枯死状況を図4に示す。

処理後1ヶ月経過した時点(6月)の調査では、ニセアカシアは一旦、全部の葉を落としていたが、一部に小さな萌芽が確認された。また処理後半年経過した時点(11月)では、試験木40本中23本で枯死が確認された。

これらのことから、薬剤処理はニセアカシアの萌芽再生の抑制に効果があると考えられた。

処理方法は、「巻き枯らし＋薬剤塗布」手法において、全て枯死し、処理効果が高かった。また、薬剤の違いによる差は確認されなかった。

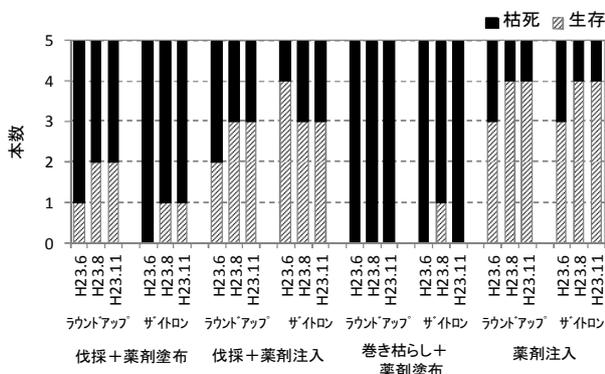


図4 ニセアカシアの薬剤による枯死状況



写真「巻き枯らし＋薬剤塗布」
巻き枯らした部位に薬剤を塗布する

3.4 ガード類等による維持管理手法の比較試験

誤伐を受けにくい植栽方法として、寄せ植え工法による作業の効率化試験を実施し、誤伐発生率の低下や作業時間の短縮を確認した¹⁾。しかし、寄せ植え工法は、ノウサギによる食害や誤伐を完全に防ぐことは不可能である。

そこで、誤伐や食害防止効果を向上させる手法として、ガード類による物理的に誤伐対策と防草シートによる苗木の視認性向上対策を実施した。

3.4.1 ガード類等の選定

比較試験は、市販されており入手可能な資材を採用し、サブリガード、ミキガード、ウッドガード、防草シートの4タイプで実施した。

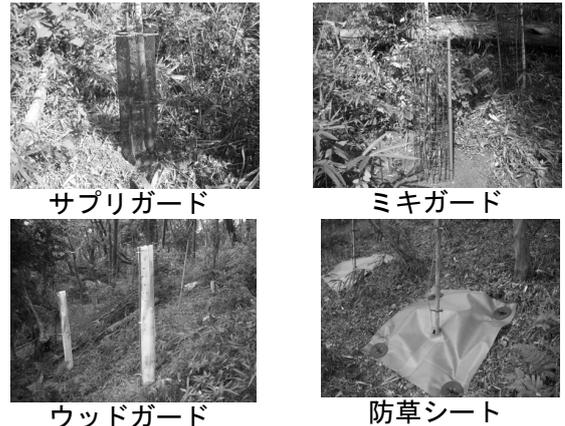


写真 ガード類等設置状況

3.4.2 効果の確認

誤伐及び食害防止資材の効果を確認するために、ネザサ刈り取り直後(平成23年11月)に誤伐発生状況調査を実施した。

その結果、どのガード類においても誤伐は発生しておらず、資材設置による誤伐防止効果が確認された。また、今回の調査結果では、資材間の効果の差は確認されなかった。

3.4.3 樹林整備への試験導入

ガード類等の誤伐や食害に対する効果が確認されことから、ガード類を樹林整備に試験導入することとした。樹林整備に採用する誤伐及び食害防止資材は、強度や視認性、景観に対する影響等から判断して、ミキガードと防草シートとした。

これら2つの資材と3本寄せ植え工法を組み合わせ、平成24年3月に試験導入した。今後、誤伐や食害の発生状況のモニタリングを行う。

4 効果的な樹林整備の実施に向けて

本研究により、ネザサを早期に衰退させる手法やニセアカシアの萌芽再生を抑制する手法が明らかとなった。さらにガード類による誤伐や食害対策の効果も明らかとなった。

本研究の成果を樹林整備へ試験的に導入し、施工時に発生する課題を把握すると共に、樹林整備全体への本格的な導入へとつなげる。

5 おわりに

今後は、竹林整備手法試験、ニワウルシの駆除対策試験等を実施し、効果的なグリーンベルト樹林整備手法の確立を目指す。

1) 木下篤彦, 岡本敦, 藤井禎浩, 梅迫泰年, 山内昌之: 六甲山系グリーンベルト整備事業における植生調査-効果的な樹林整備を目指して-, 砂防学会誌, Vol. 64 No. 3, p. 68-74, 2011. 9